

証券監督者国際機構 (IOSCO) 代表理事会

グローバル・ステーブルコインに関するステートメント

2019 年 11 月 4 日

10 月 30 日のマドリッド会合において、IOSCO 代表理事会は、他の議題と共に、全世界的な広がりを持つ可能性がある「ステーブルコイン」に関する活動（「いわゆるグローバル・ステーブルコイン」）のリスクと便益、及び証券規制がどのように適用されるかについて検討した。

本年、IOSCO はステーブルコインに関する多数の活動につき調査を実施した。IOSCO 代表理事会は、ステーブルコインは市場参加者、消費者、投資家にとって潜在的にメリットがあるものの、消費者保護、市場の公正さ、透明性、利益相反、金融犯罪、システムリスクを含む多くの面で潜在的なリスクもあると認識している。

こうした議論の参考とするため、IOSCO のフィンテックネットワーク¹ において、代表理事会に向けて、グローバル・ステーブルコインの活動に IOSCO の原則・基準がどのように適用されるかにつき分析を実施した。詳細な分析の結果、IOSCO 原則・基準や各国の法規制の適用についてはケースバイケースのアプローチが必要と結論付けられた。したがって、関係者の権利と義務、及びスポンサーの継続的な義務を含めた個別のステーブルコインの運営方法についての詳細な理解が必要となる。

アシュリー・オルダー IOSCO 代表理事会議長は以下のように述べた。

『我々の分析によると、「ステーブルコイン」と呼ばれるものは、規制されている証券が有する典型的な特徴を兼ね備える可能性がある。すなわち、IOSCO 原則・基準が適用されるかは、開示、登録、報告、スポンサー及び販売者の責任に関する事項を含むステーブルコインの構造に影響される。

グローバル・ステーブルコインの活動は、国際的、公的な検討のまさに対象となる。我々は、システム上大きな影響を与えうるグローバル・ステーブルコインが政策及び規制上の一連の深刻なリスクを生じさせるという直近の [G20 プレスリリース](#) に同意する。そのため、我々は、ステーブルコインに関するリスクが特定、緩和され、潜在的な利益が実現されるよう国際的な協力を促す。直近の [G7 報告書](#) では多くの懸念がまとめられており、IOSCO

¹ 2018 年 5 月、IOSCO はフィンテックの活動に関するメンバーの経験の共有を促進することを目的としフィンテックネットワークを設立した。本ネットワークの議長は英国 FCA であり、95 以上の組織がメンバーとなっている。

は、金融安定理事会(FSB)のフォローアップ業務に参画し、他の基準設定主体と密接に協働し協調的な対応を実施する。

ステーブルコインを立ち上げる予定の主体、特に全世界的規模での扱いを検討している者は、業務を行いうる地域において関係する全ての当局と一緒にオープンかつ建設的に対応すべきである。

FSBの作業のサポートに加え、IOSCOのフィンテックネットワークでは、グローバル・ステーブルコインの活動に関する分析や検討を続けていくとともに、証券当局間の情報共有を促していく。』

NOTE については省略。

NOTE: This media release is a translation of the original English-language version and its content has not been verified by the IOSCO General Secretariat. For the original, please see <https://www.iosco.org/news/pdf/IOSCONEWS550.pdf>